

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3471900518		
法人名	社会福祉法人慈照会		
事業所名	グループホーム ふの慈照会		
所在地 (電話番号)	広島県三次市布野町上布野1059番地2 (電話) 0824-54-7111		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29		
訪問調査日	平成22年3月30日	評価確定日	平成22年4月15日

## 【情報提供票より】(H22年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 10.65 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造平屋建て造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

### (4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	7 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	85 歳	最低	65 歳
		最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ビーバラ花の里病院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、1階平屋建ての建物を活用した2ユニット(定員18名)で建物は、和を基調とした設計で快適に生活が出来るような構造設計となっている。要所要所に大きな窓を活用し、日光が入るよう採光されている。関連の協力病院や高齢者施設等と密に連携を行い、常に連携や協力体制がある。家族などとの協働関係づくりも地道に取り組まれており、来訪される家族が多いことから日々の関わりが出来ている様子が伺えた。支援に当たる職員も、みんなで一緒に楽しく過ごせるように、寄り添いながら馴染みのあるサービスを提供している。全職員で策定した事業所独自の理念である、「笑顔」「安心」「応援」を念頭に置き、入居者一人ひとりのペースでゆったりと生活ができるよう環境調整に努めている。家庭的な雰囲気や暖かい感じの安心感のある事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の主な改善課題点であった項目「運営推進会議を活かした取り組み」については、職員間で話し合いをして改善に向けて取り組まれているが、地域性や関係者の都合などにより、定期的な開催が遅れている状況がある。今後も、運営推進会議を通じて、各参加者から多くの意見等をひきだし、サービスの向上につなげながら今以上に双方向的な会議となることを望みます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員一人ひとりが自己評価の意義や目的をよく理解した上で取り組んでいる。自己評価を実施し、その結果を踏まえ、日々の支援の振り返りや創意工夫を行いながら、日常のサービスの質の確保・向上に取り組むことを望みます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は、地域性や行政関係者の都合などで定期的な開催が遅れている状況がある。会議には、市役所高齢者福祉課、市・地区の社会福祉協議会、市の民生児童委員、家族代表等の幅広い立場の人が参加されており、参加メンバーにホームの現状を理解し、支援していただく貴重な機会となっている。会議では、積極的な意見交換が行われ、また参加者からの意見や要望などの提案も多くあり、それらを活かしながらサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族へは、日常で変化などがある場合は、その都度電話で連絡している。家族の来訪時には、ホームでの生活状況を詳細に伝え、他には毎月1回の請求時に広報誌やホーム独自のメッセージカードを送付して近況を報告している。ホームの玄関には、意見箱を設置し、また運営推進会議等を通じて家族の意見や希望を積極的に伺い、それらの意見を活かしながら入居者の支援または運営の改善につなげている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>周辺部が、山間部で地域的に隣近所との交流が難しい状況があるが、ホームとして最大限可能な範囲で、地域の奉仕活動(草刈り)など行事や福祉祭りに参加している。地域の一人住まいの高齢者の人達が気軽にホームに来訪されて、昼食を頂きながら交流を深める取り組みも行っている。近隣の保育所の「お遊戯会」発表会の場としてホームを開放している。今後も運営推進会議を通じて地域の情報を得ながら出来る限り交流を深め、地域資源と協働しながら利用者一人ひとりへの支援に取り組んで行くことを望みます。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念「笑顔」「安心」「応援」を念頭に置き、各ユニット共に理念の実現に向けて取り組んでる。更に、職員全員にマニュアル冊子ノートを作成し、職員一人ひとりが安心して業務が出来るようマニュアルノートを活用し、日々業務に取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームや各ユニットに理念を掲げている。運営方針などに迷いが生じた場合は、日々のミーティングや月2回のユニット機会を通じて確認などを行い、日々の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の奉仕活動(草刈り)などや行事(秋祭り・とんど等)や福祉祭りに参加し、保育所のお遊戯の発表会の場として、ホームを開放し地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が前向きに自己評価に取り組み、最終的に管理者がまとめられている。自己評価の結果を踏まえ、朝礼時やユニット会議(月2回)の機会での話し合いを行い、改善に取り組まれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は、地域性や行政機関等との都合により、定期的な開催が遅れている状況がある。		運営推進会議を通じて、各参加者からのお知恵を頂きながら運営に反映させたり、会議とサービス評価を結びつけながら、サービス向上に活かしている。今後も運営推進会議への積極的な参加への呼びかけを行いながら、今以上に地域の理解を深める取り組みを望みます。開催回数を今後増やすことに努め、それらを活かすことにより、サービスの質の向上や入居者の生活の幅が広がることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に、市役所の高齢者福祉課が参加され、担当者との連携をしている。管理者は随時、市の担当者との関係づくりを図る中、情報交換などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常で変化などがある場合は、その都度電話連絡している。家族の面会が多いこともあり、来訪時には、日々の暮らしを詳細に報告しながら関係づくりに努めている。また、毎月の請求時には広報誌やホーム独自のメッセージカードで近況報告をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関に意見箱を設置し、苦情処理担当者の掲示もしている。家族訪問時や随時、職員が話し合いをする場面を設け、家族の生の声を聞くよう努力されている。それらの意見を活用され運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係作りが必要なため、法人内で、適任者の配置をして配慮されている。やむを得ず異動がある場合は、利用者や家族が困らない体制作りを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの内部研修や外部研修には、積極的に参加している。職員一人ひとりが資質の向上のため資格取得を目指し、人材育成に取り組まれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各同業者を通じて、情報交換や職員交流を図り、サービスの質の向上に努めている。今後も、外部研修などを通じ、同業他社との交流も深めサービスの質の向上させていく取り組みを期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、ホームの見学をお願いしたり本人と家族には十分説明し、納得の上利用して頂いている。入居された、1～2週間は特に注意し、信頼関係作りに重点を置いた環境づくりに努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一人ひとりの個性を活かし、お互いが共同しながら和やかな生活が出来るよう場面設定をしている。ホーム独自の理念を念頭に置き、共に歩み、一緒に過ごすことを大切にした生活を職員全員が日々実践している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の生活歴(生育歴)を把握したなか、個別対応のサービスを提供している。又、ゆとりある時間帯を中心に利用者に極力寄り添い、本人の意向や要望をキメ細かく把握するよう暮らしのニーズに努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に家族の意見や必要に応じて、本人の聴き取りを行っている。日々状況が変化中、来訪された家族の希望や意向を把握し、その内容をケアノートに記載している。それらの意見を情報を共有し、それらを基に介護計画に反映させた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画を見直しながら、家族の同意を得ている。また状態に変化などがみられた時には、ケアノートを活用し随時モニタリングなどを行い、変更・修正などを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じて、入居者の自宅訪問や、買い物、通院等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医の定期受診をし、症状によっては他の医療機関への受診をするなど、適切な医療が受けられるように全面的に支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化した場合における指針」に準じ、主治医と相談しながら、ホームとして最大限可能な支援を家族と十分に話し合いをもち、職員全員その対応方針を共有し支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間や会議等で、確認と話し合いを行っている。プライバシーの確保が保てるように各職員が配慮して、入居者の人権・権利を意識しながら日々の業務に取り組んでいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、その日の気分と体調を考慮し、個人の希望に沿いながらの対応を行っている。また個人の要望などは、臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で野菜など収穫した筍の食材を活用した、季節感のある食事メニューである。一人ひとりの好みを取り入れ、食材及びメニューを考えている。個々の能力に応じて調理の下準備や配膳・片付けが出来る方など出来ることはして頂いている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日は決まっているが、一人ひとりの状況を把握するなか、出来るだけ希望に沿うように支援している。入浴拒否があれば、時間を置いたり、対応職員を変えたりと目配り・気配り・声配りを図りながら入浴が楽しめるよう支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の生活歴や日々の関わりの中から本人の役割や楽しみごとを見つけ出し、農作業や掃除、レクリエーションなど役割を持って頂くことにより、本人が出来ることはして頂く様にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然が残り、環境が整ったホームの近隣に、散歩に出掛ける機会づくりに努め、気分転換や五感刺激を得られるような支援をしている。又、本人の意思を尊重したり、時候や体調に合わせながらの、外出支援等も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は安全確保の目的以外での施錠は行っていない。個々の入居者の傾向を把握し、日中は職員の見守りと玄関チャイムの活用を行い、一人ひとりが鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に防災訓練を実施している。地域の協力については、運営推進会議等を通じて協力願いを行っていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事メニューである。体重測定や毎日の食事状況を把握をするなか、個々の食事形態や栄養摂取量に見合った食事の提供をしている。水分補給についても、一日を通じお茶の時間を決め習慣化している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた植物や飾り付けを行い、適度な採光が取り入れられ、常に清潔に保たれている。ホームの菜園で、季節の野菜を植え成長を楽しんでいる。入居者一人ひとりが居心地良く、我が家のように生活されているのが伺える。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、家族と相談しながら自宅で使っていた馴染みのある物品などを自由に持ち込まれており、居心地よく過ごせるように工夫している。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 心の慈照園 こぶし ユニット

評価年月日 平成22年 3月 15日

記入年月日 平成22年 3月 19日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 尾田 正行

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の運営理念を基に、グループホームふの慈照園独自の基本理念を策定している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	機会あるごとに、朝礼や部署会で理念に基づく介護をするよう取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族会や情報提供時には、理念の取り組みを説明している。家族の方には、理解してもらっていると思っている。 引き続き、広報誌(たより)で理解を求めていきたいが、地域には浸透していない。		地域には、運営推進会議等で理解を求めていきたい。

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ボランティア活動を通じ、地域の人への声かけをしている。近隣の独居老人にも昼食に誘うなどし、気軽に立ち寄ってもらえるようしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の奉仕活動(草刈)などや行事(秋祭・とんど等)に参加し、保育所などとも交流している。		今後も、交流を継続したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>医療機関の協力の基、地域の方を中心とした認知症講演会を開催した。現在は全市の取り組みを実施している。キャラバンメイトに参加し研修や交流を行っている。</p>		<p>今後はミニ研修(高齢者グループ対象)に取り組みたい。運営推進会議や地元社協と協力して進めたい。</p>
<p>3 理念を実践するための制度の理解と活用</p>				
7	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価することにより、機会あるごとに、朝礼や部署会で評価に基づく改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議で意見を聴いて質やサービスの向上サービスに努めている。</p>		<p>開催回数を今後増やすよう努めたい。</p>
9	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市とは、常に連絡を取り情報交換しながら、指導を受けている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修等で必要性を学んでいる。広報誌や家族会で必要性を伝えている。</p>		<p>資料等を配布し、支援したい。また必要に応じ関係者と話す機会を持つ考えです。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修する中で、虐待防止に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

#### 4 理念を実践するための体制

12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に時間をかけ説明し理解を得ている。 解約時は、解約に係る問題点を説明し、必要があれば他の施設等の対応が決まってから解約している。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者・契約者の意見を、常に聴きケアに勤めている。 意見箱を設置し、掲示板で公表している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	広報誌などで、施設内での暮らしぶりを報告している。個々には、毎月メッセージカードで近況を報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱設置や重要事項説明書等に明記し、掲示板で公表している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	機会あるごとに、朝礼や部署会で職員の意見を聴き改善に取り組んでいる。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じ、ユニット間で柔軟な対応をして勤務の調整を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>法人内で、適任者の配置をして配慮している。            馴染みの関係を作るよう努めている。</p>		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修は、段階に応じ計画的に行い、法人内外の研修を受ける機会の確保できるよう努めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>ネットワークづくりや勉強会の機会はないが、交流は行っている。</p>		<p>勉強会等の機会が持てるよう努力したい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>法人全体で取り組んでいる、園としても職員とのコミュニケーションを図るなど工夫している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>努力や実績を自己評価に反映し、向上心が持てるよう務めている。</p>		<p>評価制度の導入で向上心をもてるよう継続した取り組みを行いたい。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>入所相談時の施設見学や面接時時間を取り、心配事や不安を把握し、受け止める努力をしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学や利用内容等の説明時に面接時時間を取り、心配事や不安を把握し、受け止める努力をしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の段階で、本人や家族の要望を聴き必要に応じ支援に務めている。		相談の内容により、必要なサービス利用を判りやすく説明し、状況により直接事業所に相談している。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所され、1～2週間は特に注意し、雰囲気にならな馴染まれるコミュニケーションに努めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や料理手伝い等の会話の中で学ぶことも多いので、常に声がけをし、信頼関係に勤めている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族会や来訪時に情報交換を行い、コミュニケーションを図り支援している。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族とは常に連絡を行い、介護等の意見を聞き支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族・知人等の来園時ゆっくり話が出来るよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ディルームでの座る位置を工夫したり、レクリエーションなどで関わり、支え合えるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院者の場合、2～3日に一度は面会をしている。契約が終了しても、月一回程度の面会を約一年間は継続し、関わりを保っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に行う行事以外は、個々にあった自由な時間を過ごせるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	十分把握していない点もあるので、家族の来訪時に出来るだけ聴取する様努めている。		センター方式を一部利用し、アセスメントしているが、さらに継続し利用者全員の暮らしの把握に努めたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	家族や本人の会話の中から、個々に応じた趣味・特技を把握する様努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画を作成する時は、家族に意見はきいている。また必要に応じて、本人に聞き反映するようにしている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	三ヶ月事に見直しを行い、状況の変化時には新たな計画を随時行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	独自の生活記録簿（様式）により、情報を共有しやすくし、見直しや情報交換しながら見直しに活かしている。		

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	担当者が個々の内容を常に把握し、要望・体調管理を配慮しながら、柔軟な支援をしている		
----	---	---	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議で意見を聴き又、ボランティアや警察、消防機関等と協力しながら支援している。		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	理美容等の支援はしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護等必要性に応じて、地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	専門医の定期受診をし、症状によっては他の医療機関受診の支援をしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医が認知症専門医であり、常に診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期受診する医療機関の看護師による、週1～2回の健康チェックにより良好な関係を保っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	見舞いに行くなどし、家族・医療機関へは情報交換や相談に努め、退院時に備えて連携している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、主治医と相談しながら全員で方針を共有していくことを説明している。</p>		<p>看取り指針により協議する事としているが、日ごろより主治医と連携をとり介護している。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>協議や検討をする事は、あるが準備はまだ行っていない。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>退所サマリー等で住み替えによるダメージを防止に努めている。家族とも情報を共有しながら、ケア関係者間で十分に話し合うよう努めている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p> </div>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員間や、会議等でプライバシーの確保の徹底を行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をし、自己決定できるよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入所者本位の希望にそって支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	出張理容で身だしなみを支援している、特に希望があり家族の支援が得られない時は送迎し希望店に行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	園の菜園で四季に応じた野菜を栽培し、出来た喜びや、調理の下準備や配膳・後片付けをしてもらいながら食事の楽しみを実感してもらうようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物・おやつは好みを聞いて提供している。現在はお酒・たばこの希望は無いが、季節による行事時には提供し楽しんでもらっている。		個々の嗜好により、買い物機会を増やしたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々に応じ排泄時間には、トイレ誘導を行う支援をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週の曜日で入浴日を決めているが、本人の希望により変更することで楽しんでもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣により、安心して気持ちよく過ごせるようにし、また穏やかな時間を共有し安眠への支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	本人の生活歴により、農作業や掃除・レクなど支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望や管理能力を家族と相談し支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	外出などで戸外に出かけられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年に2回から3回は、外食やドライブ(花見)等に出かけている。		10人乗りワゴンを購入し、外出や普段いけない所にも出かける機会を継続したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば、電話や手紙のやり取りができるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	常に、いつ来園されてもよい様に接客に努めている。来園には居室でお茶を飲んでいただき落ち着いた時間を過ごしてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	常に身体拘束を認めないケアに取り組んでいる。研修会・勉強会にも積極的に参加できるように取り組み職員も認識している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	基本的に鍵はかけないが、居室は利用者から苦情があれば施錠することもあるが、玄関はセンサーを設置しているが施錠はしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜通して、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自己管理(ハサミ・縫い針・つめきり)については、危険防止の取り組みをしているが、十分ではないこともある。		個々と協議し、納得した上での管理方法を考えて、具体的には管理表でチェックしたり、事務所で預かり必要時に渡すなどしている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒防止などは、カーペット・マットを敷くなどして工夫している。誤薬防止は、職員が直接手渡し確認している。個々の介護計画により、事故防止に組み込み、訓練も実施防止に取り組んでいる。		訓練研修の回数を増やし、自分ものと出来るよう徹底したい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	法人として全体で、訓練・研修を計画している。		訓練研修の回数を増やし、自分ものと出来るよう徹底したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練は実施しているが、地域の協力の働きかけは行っていない。</p>		<p>運営推進会議で協力を得られるよう働きかけをしたい。</p>
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>生活状況により、個々のリスクについて家族等に説明し理解を得るよう努めている。</p>		
<p>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>個々に健康管理に努め、職員が情報を共有し、対応に結び付けている。体調変化時には、常にかかりつけ病院に連絡を取り、主治医・看護師の指示・指導を受け対応している。</p>		<p>医療機関との連絡体制を確立しているので、今後も充実したい。</p>
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の目的や副作用、用法等理解しているが時により、かかりつけ医の看護師に再確認をするなど、服薬の支援を行っている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>予防と対応のための、散歩や飲食物の工夫等で便秘解消に取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後個々の状態により、口腔ケアを実践し清潔保持に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の記録により個々に応じた量や、一日を通じお茶の時間を決め、水分補給を習慣化している。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルにより、予防に努めている。ノロ対策備品を備え付けている。発症時期には、10月頃より、園内消毒を実施している。冬季は外出時等手洗い・うがい・マスクは励行している。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>予防のための衛生管理を行い、調理用具については、毎日消毒を行っている。</p>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>常に玄関まわりの清掃を行い、観葉植物を置くなどの工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>常に清潔にし、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置くなどして、居場所の工夫している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談し、馴染みものを置くなど個々の居室の配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室の空調は、職員が常に確認し健康管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるように、手すり等は設置してあるが、十分工夫出来ていない。		個々の身体状況の把握により安全確保に努める。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	さりげなく声かけをして、混乱や失敗を防ぎ、その人らしい生活が送れるように努めている。		センター方式によるケアも考えたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外周には、植栽したり庭には芝を張り楽しく散歩出来るようにしている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 心の慈照園 さくら ユニット

評価年月日 平成22年 3月 15日

記入年月日 平成22年 3月 19日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 尾田 正行

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	法人の運営理念を基に、グループホームふの慈照園独自の基本理念を策定している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	機会あるごとに、朝礼や部署会で理念に基づく介護をするよう取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族会や情報提供時には、理念の取り組みを説明している。家族の方には、理解してもらっていると思っている。 引き続き、広報誌(たより)で理解を求めていきたいが、地域には浸透していない。		地域には、運営推進会議等で理解を求めていきたい。

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ボランティア活動を通じ、地域の人への声かけをしている。近隣の独居老人にも昼食に誘うなどし、気軽に立ち寄ってもらえるようしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の奉仕活動(草刈)などや行事(秋祭・とんど等)に参加し、保育所などとも交流している。		今後も、交流を継続したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>医療機関の協力の基、地域の方を中心とした認知症講演会を開催した。現在は全市の取り組みを実施している。キャラバンメイトに参加し研修や交流を行っている。</p>		<p>今後はミニ研修(高齢者グループ対象)に取り組みたい。運営推進会議や地元社協と協力して進めたい。</p>
<p>3 理念を実践するための制度の理解と活用</p>				
7	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価することにより、機会あるごとに、朝礼や部署会で評価に基づく改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議で意見を聴いて質やサービスの向上サービスに努めている。</p>		<p>開催回数を今後増やすよう努めたい。</p>
9	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市とは、常に連絡を取り情報交換しながら、指導を受けている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修等で必要性を学んでいる。広報誌や家族会で必要性を伝えている。</p>		<p>資料等を配布し、支援したい。また必要に応じ関係者と話す機会を持つ考えです。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修する中で、虐待防止に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

#### 4 理念を実践するための体制

12	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に時間をかけ説明し理解を得ている。 解約時は、解約に係る問題点を説明し、必要があれば他の施設等の対応が決まってから解約している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。</p>	<p>利用者・契約者の意見を、常に聴きケアに勤めている。 意見箱を設置し、掲示板で公表している。</p>		
14	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>広報誌などで、施設内での暮らしぶりを報告している。個々には、毎月メッセージカードで近況を報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱設置や重要事項説明書等に明記し、掲示板で公表している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>機会あるごとに、朝礼や部署会で職員の意見を聴き改善に取り組んでいる。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>必要に応じ、ユニット間で柔軟な対応をして勤務の調整を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	法人内で、適任者の配置をして配慮している。 馴染みの関係を作るよう努めている。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は、段階に応じ計画的に行い、法人内外の研修を受ける機会の確保できるよう努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ネットワークづくりや勉強会の機会はないが、交流は行っている。		勉強会等の機会が持てるよう努力したい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	法人全体で取り組んでいる、園としても職員とのコミュニケーションを図るなど工夫している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	努力や実績を自己評価に反映し、向上心が持てるよう務めている。		評価制度の導入で向上心をもてるよう継続した取り組みを行いたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入所相談時の施設見学や面接時時間を取り、心配事や不安を把握し、受け止める努力をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学や利用内容等の説明時に面接時時間を取り、心配事や不安を把握し、受け止める努力をしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の段階で、本人や家族の要望を聴き必要に応じ支援に務めている。		相談の内容により、必要なサービス利用を判りやすく説明し、状況により直接事業所に相談している。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所され、1～2週間は特に注意し、雰囲気になら馴染まれるコミュニケーションに努めている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や料理手伝い等の会話の中で学ぶことも多いので、常に声がけをし、信頼関係に勤めている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族会や来訪時に情報交換を行い、コミュニケーションを図り支援している。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族とは常に連絡を行い、介護等の意見を聞き支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族・知人等の来園時ゆっくり話が出来るよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ディルームでの座る位置を工夫したり、レクリエーションなどで関わり、支え合えるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院者の場合、2～3日に一度は面会をしている。契約が終了しても、月一回程度の面会を約一年間は継続し、関わりを保っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的に行う行事以外は、個々にあった自由な時間を過ごせるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	十分把握していない点もあるので、家族の来訪時に出来るだけ聴取する様努めている。		センター方式を一部利用し、アセスメントしているが、さらに継続し利用者全員の暮らしの把握に努めたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	家族や本人の会話の中から、個々に応じた趣味・特技を把握する様努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画を作成する時は、家族に意見はきいている。また必要に応じて、本人に聞き反映するようにしている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	三ヶ月事に見直しを行い、状況の変化時には新たな計画を随時行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	独自の生活記録簿（様式）により、情報を共有しやすくし、見直しや情報交換しながら見直しに活かしている。		

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	担当者が個々の内容を常に把握し、要望・体調管理を配慮しながら、柔軟な支援をしている		
----	---	---	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議で意見を聴き又、ボランティアや警察、消防機関等と協力しながら支援している。		
----	--	---	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	理美容等の支援はしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護等必要性に応じて、地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	専門医の定期受診をし、症状によっては他の医療機関受診の支援をしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医が認知症専門医であり、常に診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期受診する医療機関の看護師による、週1～2回の健康チェックにより良好な関係を保っている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	見舞いに行くなどし、家族・医療機関へは情報交換や相談に努め、退院時に備えて連携している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、主治医と相談しながら全員で方針を共有していくことを説明している。</p>		<p>看取り指針により協議する事としているが、日ごろより主治医と連携をとり介護している。</p>
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>協議や検討をする事は、あるが準備はまだ行っていない。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>退所サマリー等で住み替えによるダメージを防止に努めている。家族とも情報を共有しながら、ケア関係者間で十分に話し合うよう努めている。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>職員間や、会議等でプライバシーの確保の徹底を行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をし、自己決定できるよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入所者本位の希望にそって支援している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	出張理容で身だしなみを支援している、特に希望があり家族の支援が得られない時は送迎し希望店に行っている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	園の菜園で四季に応じた野菜を栽培し、出来た喜びや、調理の下準備や配膳・後片付けをしてもらいながら食事の楽しみを実感してもらうようにしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物・おやつは好みを聞いて提供している。現在はお酒・たばこの希望は無いが、季節による行事時には提供し楽しんでもらっている。		個々の嗜好により、買い物機会を増やしたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々に応じ排泄時間には、トイレ誘導を行う支援をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週の曜日で入浴日を決めているが、本人の希望により変更することで楽しんでもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣により、安心して気持ちよく過ごせるようにし、また穏やかな時間を共有し安眠への支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	本人の生活歴により、農作業や掃除・レクなど支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望や管理能力を家族と相談し支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	外出などで戸外に出かけられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	年に2回から3回は、外食やドライブ(花見)等に出かけている。		10人乗りワゴンを購入し、外出や普段いけない所にも出かける機会を継続したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば、電話や手紙のやり取りができるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	常に、いつ来園されてもよい様に接客に努めている。来園には居室でお茶を飲んでいただき落ち着いた時間を過ごしてもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	常に身体拘束を認めないケアに取り組んでいる。研修会・勉強会にも積極的に参加できるように取り組み職員も認識している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	基本的に鍵はかけないが、居室は利用者から苦情があれば施錠することもあるが、玄関はセンサーを設置しているが施錠はしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜通して、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自己管理(ハサミ・縫い針・つめきり)については、危険防止の取り組みをしているが、十分ではないこともある。		個々と協議し、納得した上での管理方法を考えて、具体的には管理表でチェックしたり、事務所で預かり必要時に渡すなどしている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒防止などは、カーペット・マットを敷くなどして工夫している。誤薬防止は、職員が直接手渡し確認している。個々の介護計画により、事故防止に組み込み、訓練も実施防止に取り組んでいる。		訓練研修の回数を増やし、自分ものと出来るよう徹底したい。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	法人として全体で、訓練・研修を計画している。		訓練研修の回数を増やし、自分ものと出来るよう徹底したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は実施しているが、地域の協力の働きかけは行っていない。		運営推進会議で協力を得られるよう働きかけをしたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	生活状況により、個々のリスクについて家族等に説明し理解を得るよう努めている。		
( 5 ) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々に健康管理に努め、職員が情報を共有し、対応に結び付けている。体調変化時には、常にかかりつけ病院に連絡を取り、主治医・看護師の指示・指導を受け対応している。		医療機関との連絡体制を確立しているので、今後も充実したい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用、用法等理解しているが時により、かかりつけ医の看護師に再確認をするなど、服薬の支援を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	予防と対応のための、散歩や飲食物の工夫等で便秘解消に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後個々の状態により、口腔ケアを実践し清潔保持に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の記録により個々に応じた量や、一日を通じお茶の時間を決め、水分補給を習慣化している。</p>		
78	<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルにより、予防に努めている。ノロ対策備品を備え付けている。発症時期には、10月頃より、園内消毒を実施している。冬季は外出時等手洗い・うがい・マスクは励行している。</p>		
79	<p>食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>予防のための衛生管理を行い、調理用具については、毎日消毒を行っている。</p>		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>常に玄関まわりの清掃を行い、観葉植物を置くなどの工夫をしている。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>常に清潔にし、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置くなどして、居場所の工夫している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談し、馴染みものを置くなど個々の居室の配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室の空調は、職員が常に確認し健康管理に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるように、手すり等は設置してあるが、十分工夫出来ていない。		個々の身体状況の把握により安全確保に努める。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	さりげなく声かけをして、混乱や失敗を防ぎ、その人らしい生活が送れるように努めている。		センター方式によるケアも考えたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	外周には、植栽したり庭には芝を張り楽しく散歩出来るようにしている。		